



2027年3月期第1四半期 決算説明資料

2026年8月4日

株式会社サンクゼール（証券コード：2937）

愛と喜びのある 食卓をいつまでも

Lasting love and joy at your table



01 | 2027年3月期第1四半期 連結決算

02 | 販売チャネル別業績

03 | 連結財務状況ほか

04 | 2027年3月期 事業方針進捗

05 | Appendix

01 | 2027年3月期第1四半期 連結決算

02 | 販売チャネル別業績

03 | 連結財務状況ほか

04 | 2027年3月期 事業方針進捗

05 | Appendix

ハイライト

売上高

5,081 百万円

前年同期比 +6.3%
(前年同期 4,781 百万円)

売上総利益

1,763 百万円

前年同期比 +1.8%
(前年同期 1,732 百万円)

営業利益

73 百万円

前年同期比 ▲47.0%
(前年同期 139 百万円)

四半期純利益

37 百万円

前年同期比 +32.8%
(前年同期 28 百万円)

売上高は前年同期比で6.3%の増加。ホールセールとグローバルの売上高が堅調に推移。

- 店舗(直営・FC)売上高は、既存店※1のお客数(前年同期比99%)が回復途上にあるものの、新規出店の売上高が寄与し、前年同期比で4.2%増。
- EC売上高は、ECサイトでの各種施策の効果が発現し始め、前年同期比▲0.3%まで回復。
- ホールセールは大手小売チェーンの販売好調により前年同期比5.5%の増加。
- グローバルは米国及び韓国での売上増により、前年同期比21.3%の増加。

売上総利益率は34.7%となり、前年同期比で1.5pt減。

- 資材及び原材料価格の高騰や、売上総利益率の低い商品群の訴求強化等により売上総利益率が悪化。

営業利益率は1.5%となり、前年同期比で1.4pt減。

- 売上総利益率が低下したことに加え、人件費や荷造運搬費等の販管費が増加し、営業利益は前年同期比47.0%減。営業利益率も前年同期比1.4pt低下の1.5%。

四半期純利益は、前年同期比で32.8%増。

- 昨年計上していた特別損失が減少し、四半期純利益は前年同期比32.8%増の37百万円。

※1 当社グループは、開店後18カ月以上経過した店舗を「既存店」としております。

連結業績概要

- 売上高は前年同期比6.3%増加したものの、利益面では原価率の上昇や将来の成長に向けた販管費の増加により、営業利益および経常利益が前年同期を下回る。
- 親会社株主に帰属する四半期純利益は、特別損失の減少等により前年同期から増加。

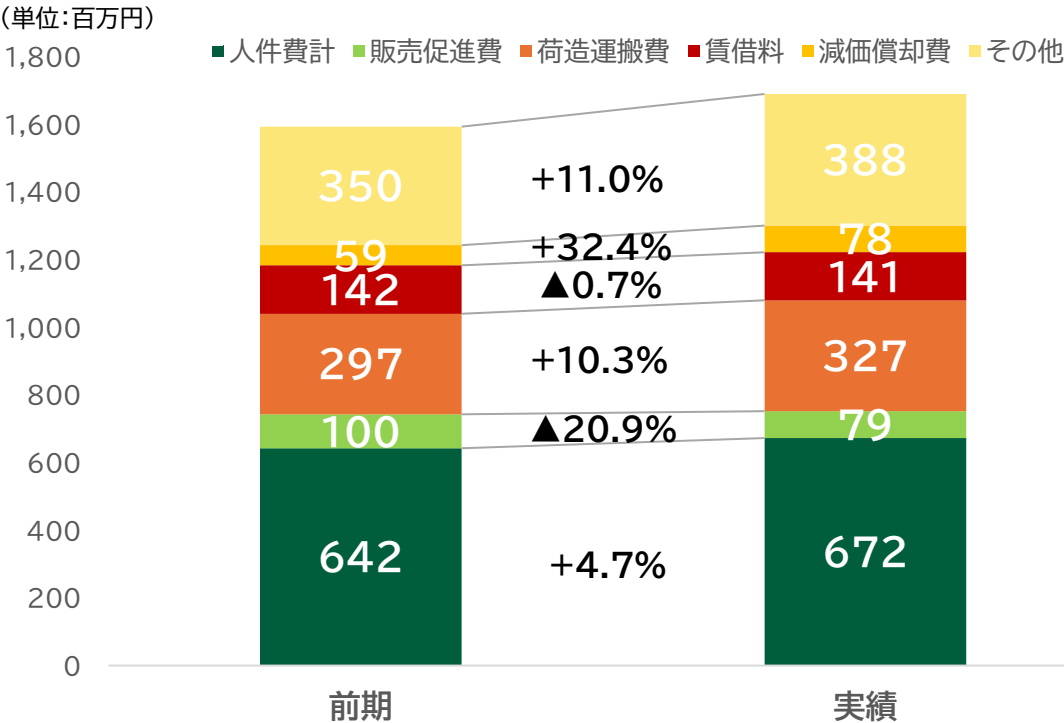
(単位:千円)	1Q累計期間 (2026/04~2026/06)				
		構成比	前年実績	構成比	前年同期比
売上高	5,081,774	100.0%	4,781,198	100.0%	6.3%
売上原価	3,318,750	65.3%	3,049,065	63.8%	8.8%
売上総利益	1,763,024	34.7%	1,732,132	36.2%	1.8%
販管費	1,689,236	33.2%	1,592,843	33.3%	6.1%
営業利益	73,788	1.5%	139,289	2.9%	▲47.0%
経常利益	81,411	1.6%	106,093	2.2%	▲23.3%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	37,398	0.7%	28,162	0.6%	32.8%

販管費の状況

販管費は前期同期比で96百万円(6.1%)の増加。

- 人件費 …… ベースアップの実施等により、前年同期比で30百万円(4.7%)の増加
- 販売促進費 … 販売戦略に沿った効果的な販促施策の推進により販促費が大幅に削減され、同20百万円(20.9%)の減少。
- 荷造運搬費 … 売上増に伴う商品輸送費や、配送・冷凍保管料の値上げ等により、同30百万円(10.3%)の増加
- 減価償却費 … Nagano Production Base(長野工場)に関する設備投資のほか、直営の新店出店や直営店舗の改装費等により、同19百万円(32.4%) の増加
- その他 …… 売上増に伴う店舗資材費や、食品安全に関する認証取得費用等の計上により、同38百万円(11.0%)の増加

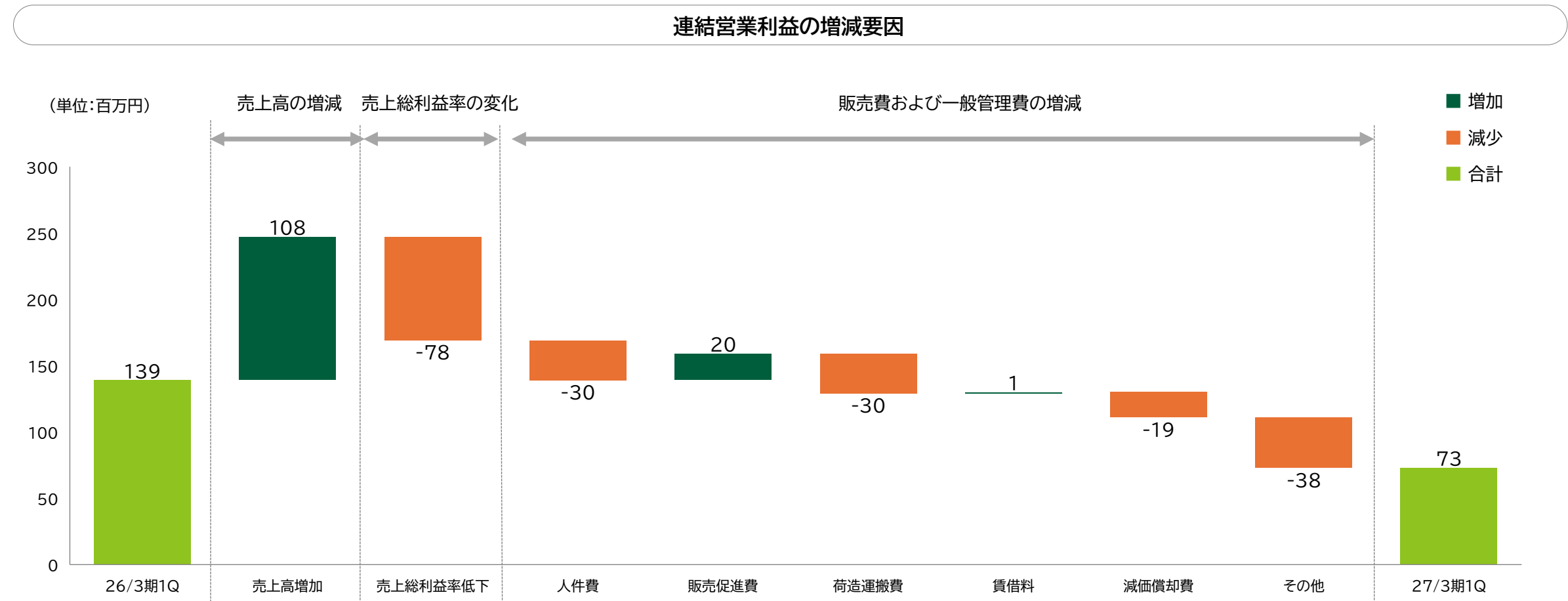
第1四半期連結累計期間(2026/04～2026/06)



(単位:千円)	1Q累計期間(2026/04～2026/06)					
	売上高比		前年実績		前年差異	前年同期比
人件費	672,419	13.2%	642,305	13.4%	30,113	4.7%
販売促進費	79,391	1.6%	100,343	2.1%	▲20,952	▲20.9%
荷造運搬費	327,773	6.4%	297,212	6.2%	30,561	10.3%
賃借料	141,941	2.8%	142,997	3.0%	▲1,055	▲0.7%
減価償却費	78,914	1.6%	59,583	1.2%	19,330	32.4%
その他	388,795	7.7%	350,400	7.3%	38,394	11.0%
合計	1,689,236	33.2%	1,592,843	33.3%	96,392	6.1%

連結営業利益 前年同期比

- 資材や原材料価格の高騰、またお客様数回復に向けた売り場改革において、売上総利益率の低い商品群の訴求強化により、売上総利益率が悪化。
- 人件費や荷造運搬費等による販管費の増加により、営業利益は前年同期比で65百万円の減少。

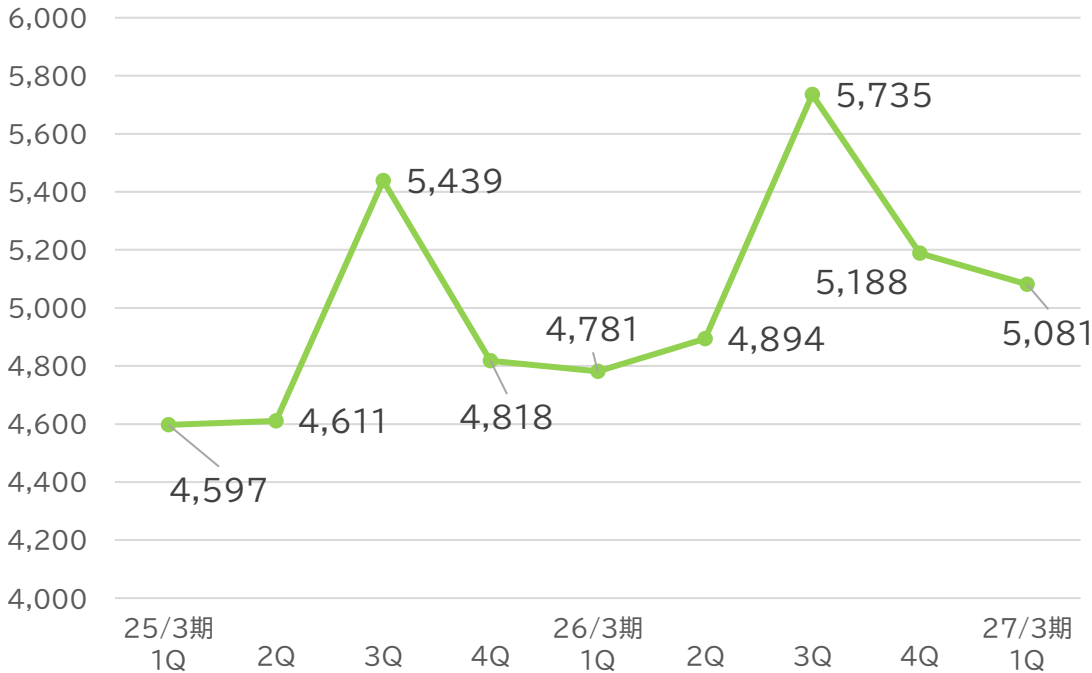


連結売上高推移

- 季節変動が大きい事業特性があるものの、25/3期からの連結売上高は増加トレンド。
- 過去4期の第1四半期連結売上高では、25/3期の第1四半期を底に連結売上高は堅調に推移。

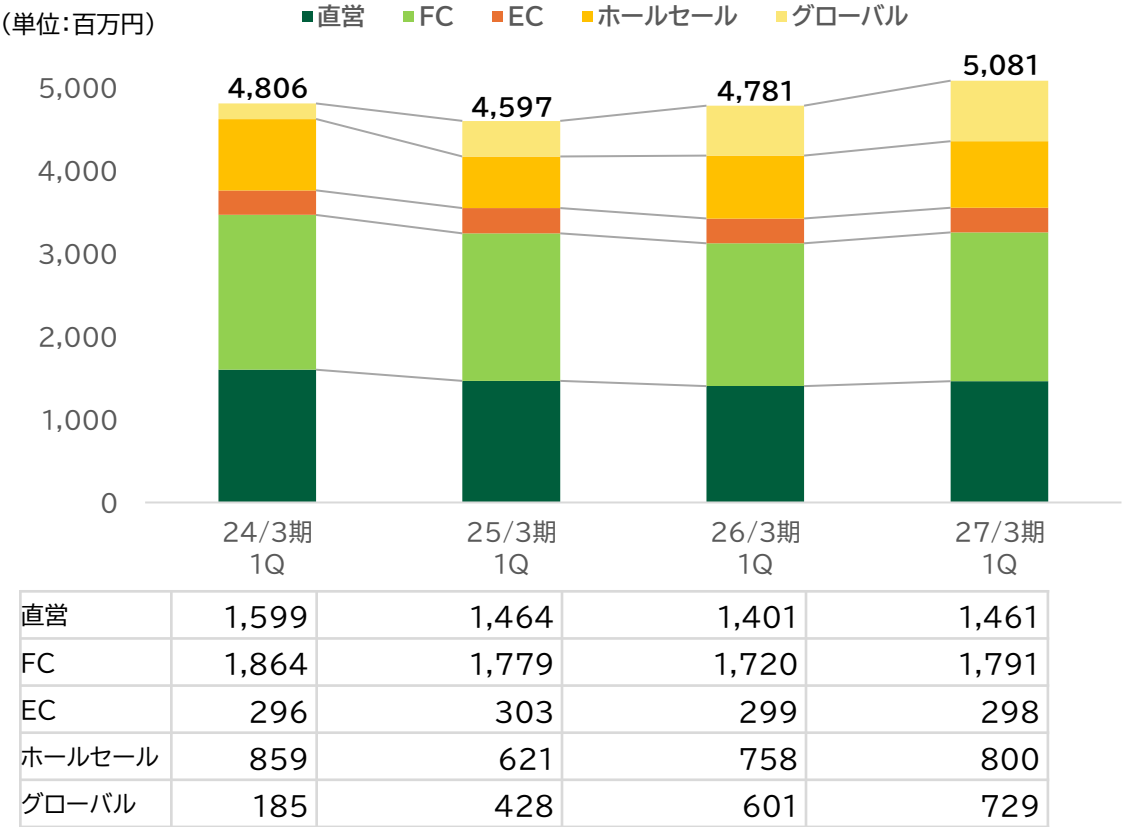
25/3期からの連結売上高推移

(単位:百万円)



過去4期の第1四半期連結売上高推移

(単位:百万円)



01 | 2027年3月期第1四半期 連結決算

02 | **販売チャネル別業績**

03 | 連結財務状況ほか

04 | 2027年3月期 事業方針進捗

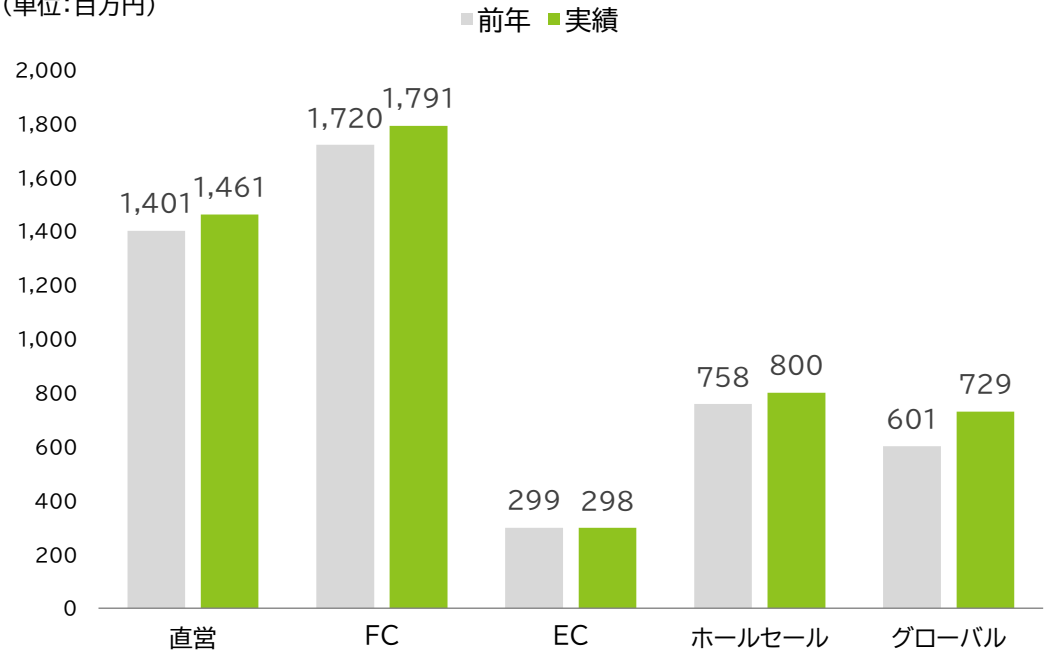
05 | Appendix

販売チャネル別売上高

- 店舗（直営・FC）…… 売上高は新規出店の寄与により前年同期比で4.2%増。一方で既存店の売上高は前年同期比で1.7%減であり、お客様数の回復に向けた売り場改革を継続。
- EC …………… 公式ECサイト及び楽天市場サイトでの全方位的な施策の効果が徐々に発現し、前年同期比で0.3%減まで回復。
- ホールセール …………… 大手小売チェーンとの取引が好調に推移し、前年同期比で5.5%増。
- グローバル …………… 米国子会社SCI及び韓国での売上が堅調に推移し、前年同期比で21.3%増。

第1四半期連結累計期間(2026/04～2026/06)

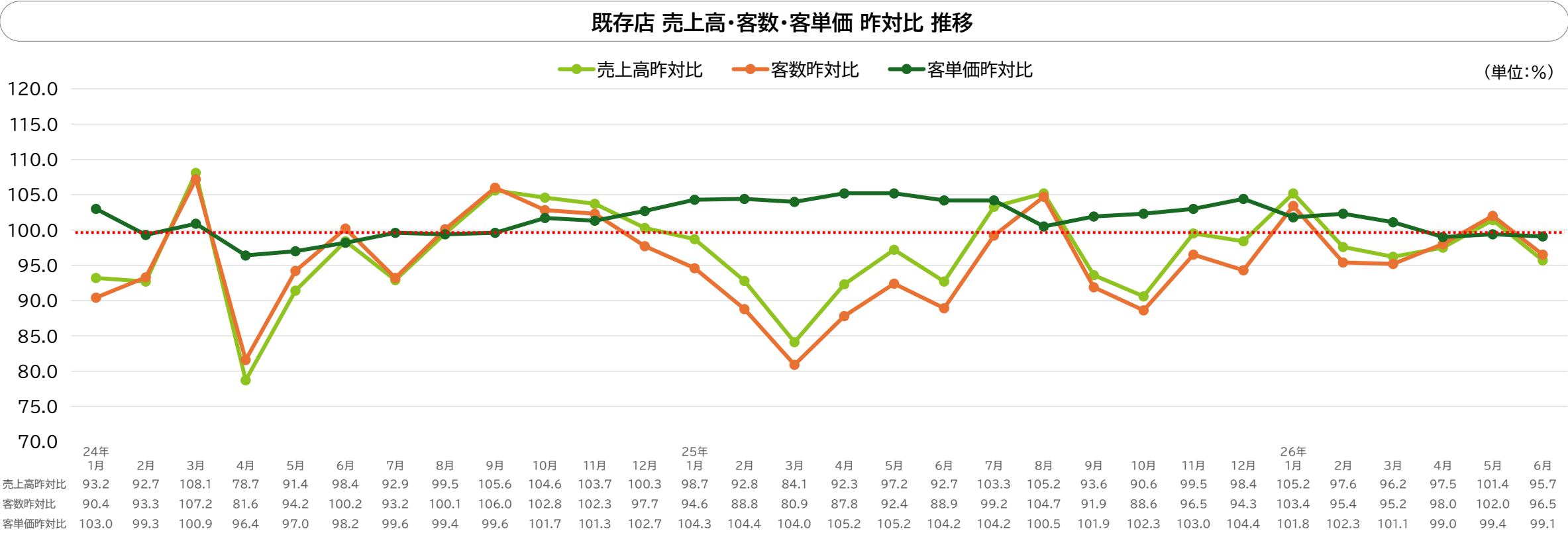
(単位:百万円)



(単位:千円)	1Q累計期間(2026/04～2026/06)				
	前年実績		前年実績		前年 同期比
		構成比		構成比	
直営	1,461,846	28.8%	1,401,521	29.3%	4.3%
FC	1,791,978	35.3%	1,720,764	36.0%	4.1%
EC	298,149	5.9%	299,162	6.3%	▲0.3%
ホールセール	800,007	15.7%	758,168	15.9%	5.5%
グローバル	729,793	14.4%	601,580	12.6%	21.3%
合計	5,081,774	100.0%	4,781,198	100.0%	6.3%

既存店※1 売上高・客数・客単価 推移

売り場演出・商品開発・店舗販売力の強化を三位一体で進める売り場改革により、既存店のお客様数は前年を上回る月も見られる等、回復基調で推移。

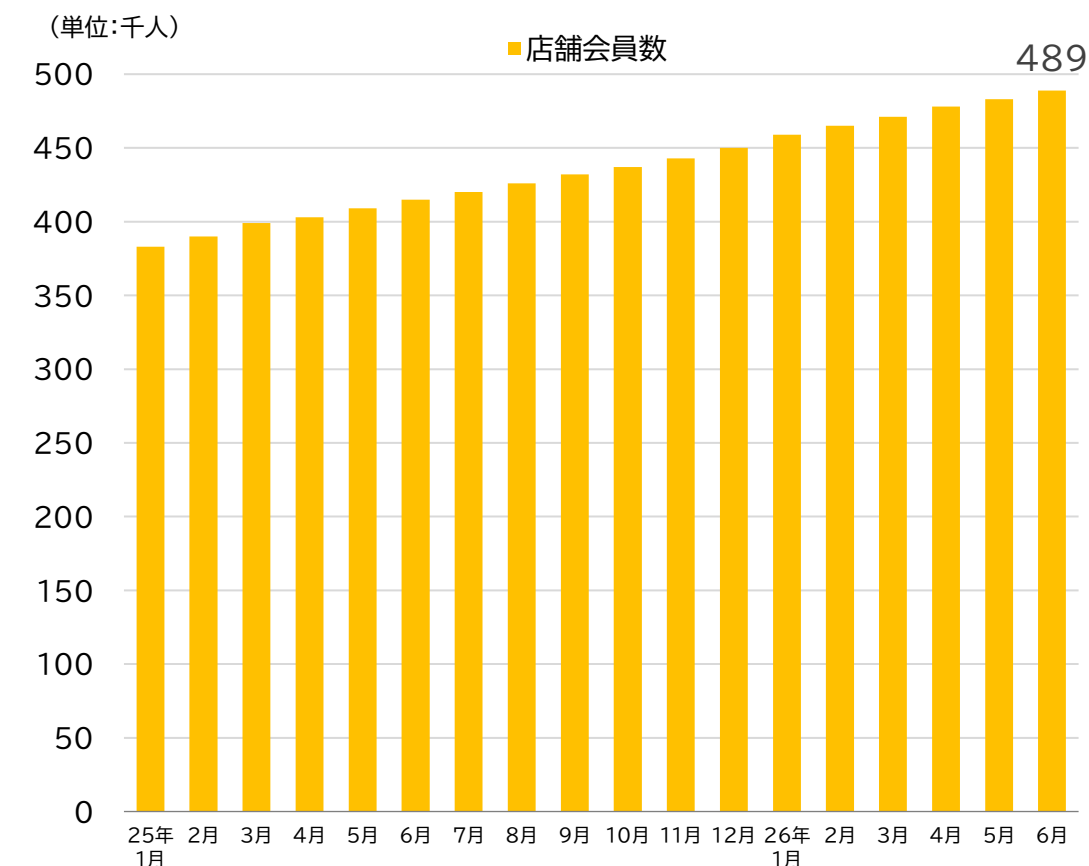


※1 当社グループは、開店後18カ月以上経過した店舗を「既存店」としております。

店舗会員数・ロイヤル顧客比率

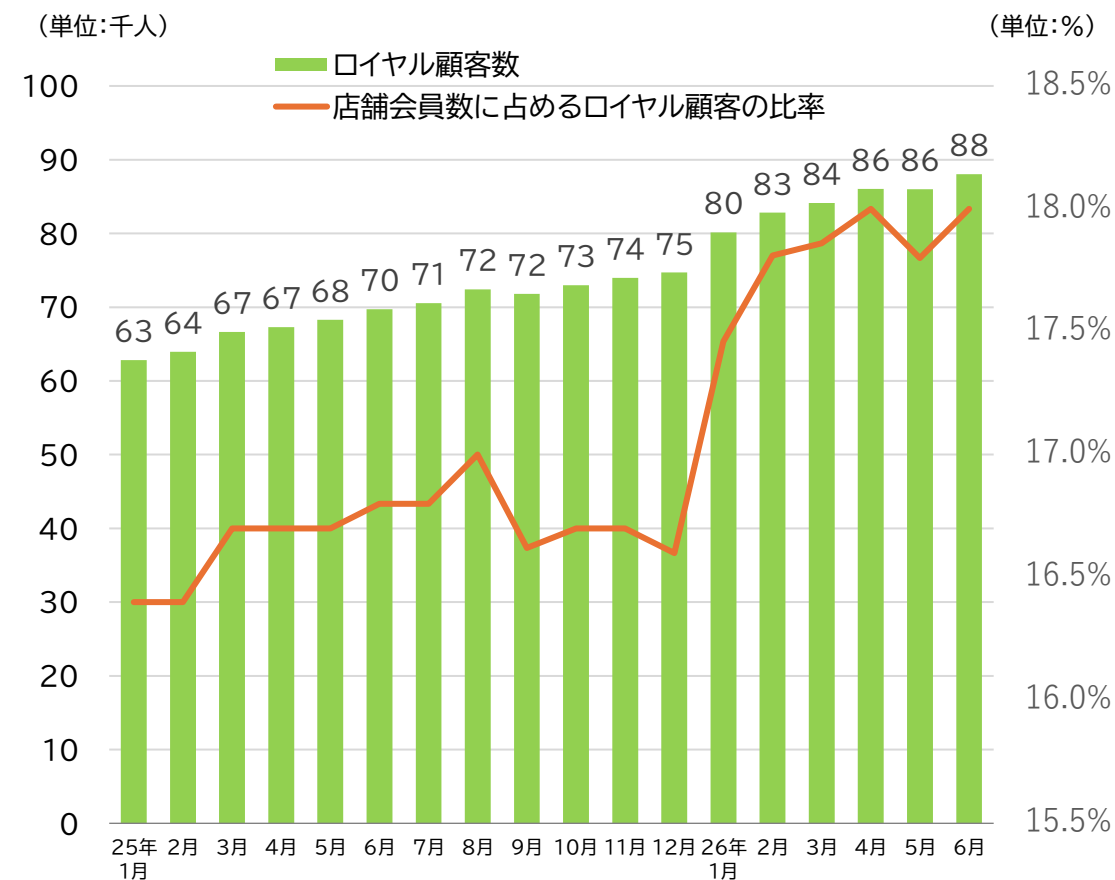
- 店舗会員数は27カ月連続で前月を上回って推移し、着実な会員基盤の拡大が継続。
- ロイヤル顧客比率は25年以降、CRM強化施策等により上昇し、直近では18%台に到達。

店舗会員数推移 ※1



※1 上記グラフはEC会員を含まない店舗をご利用いただいているお客様会員数を示しております。 ※2 当社公式アプリにご登録いただいているお客様会員のうち、基準日(各月末)から起算して7カ月間の購入金額の合計金額が当社が定める基準金額を超えるお客様会員を「ロイヤル顧客」と定義しております。

ロイヤル顧客比率 推移 ※2



業態別店舗数

出店戦略は数から質へ転換。今期は直営3店舗程度に厳選し、既存店収益力強化にシフトする。
当第1四半期連結累計期間では「久世福商店」業態で1店舗を退店し、2026年6月末時点における店舗数は以下のとおり。

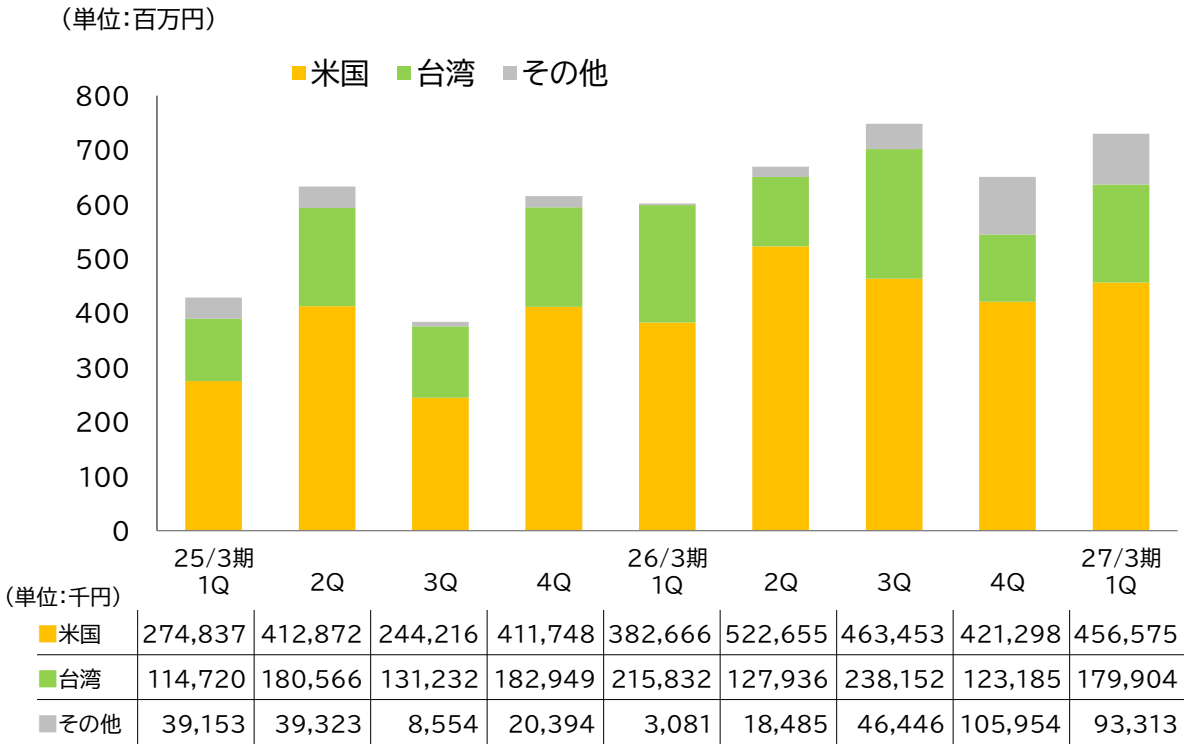
(単位:店舗)

業態名	区分	2026年3月末	増加	減少	2026年6月末
サンクゼール	直営店	3	-	-	3
	FC加盟店	-	-	-	-
	計	3	-	-	3
久世福商店	直営店	53	-	1	52
	FC加盟店	121	-	-	121
	計	174	-	1	173
全業態合計	直営店	56	-	1	55
	FC加盟店	121	-	-	121
	計	177	-	1	176

グローバルの状況：国別売上高

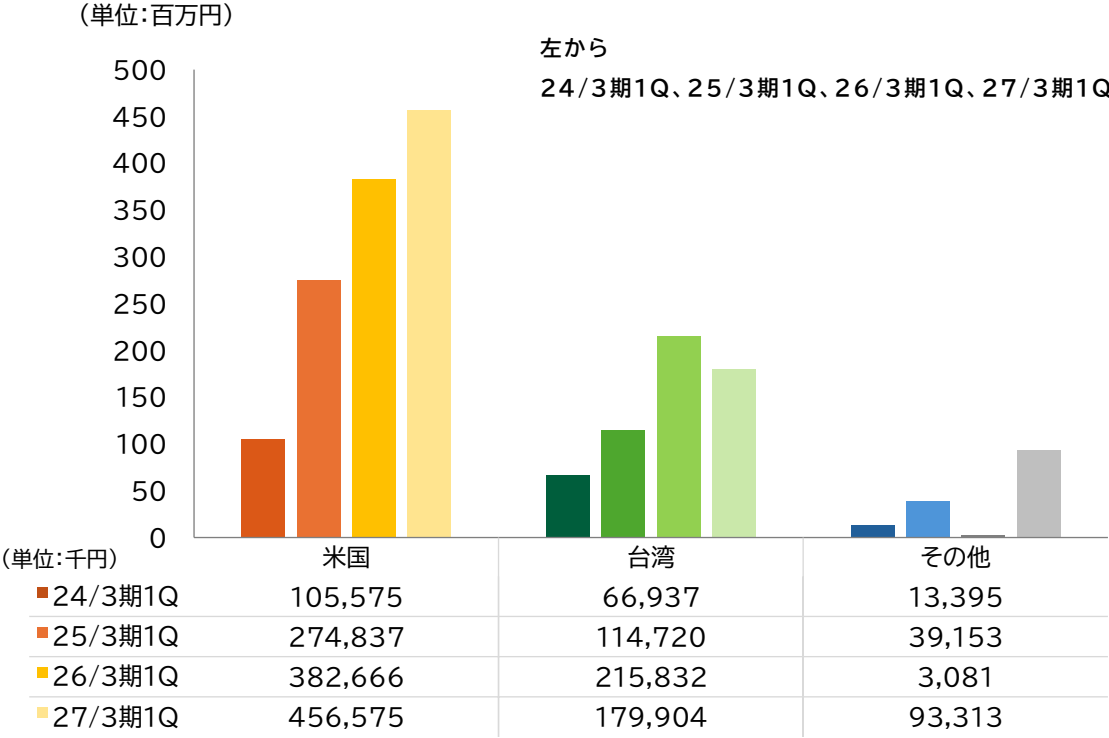
- 米国……SCIにおいて、「KUZE FUKU & SONS」や「Portlandia」ブランドの売上増に加え、2025年4月に事業譲受した「KELLY’ S JELLY」の売上計上により、売上高※1,2は前年同期比19.3%の増加。
- 台湾……売上高は前年同期比で16.6%減となるものの、米系大手小売チェーンへの取引は堅調に推移。
- その他…主に韓国SCK※3において米系大手小売りチェーンへの取引が拡大し、売上高は前年同期と比べ90百万円の増加。

売上高推移



※1 米子会社における26年1月～3月が該当
※2 当連結会計年度において、米子会社損益の換算に用いた米ドル期中平均レートは156.96円(前年同期は152.55円)

国別売上高推移 ※4



※3 韓子会社St.Cousair Korea Co., Ltdの略
※4 最終販売国別に集計しております。

01 | 2027年3月期第1四半期連結決算

02 | 販売チャネル別業績

03 | 連結財務状況ほか

04 | 2027年3月期 事業方針進捗

05 | Appendix

貸借対照表

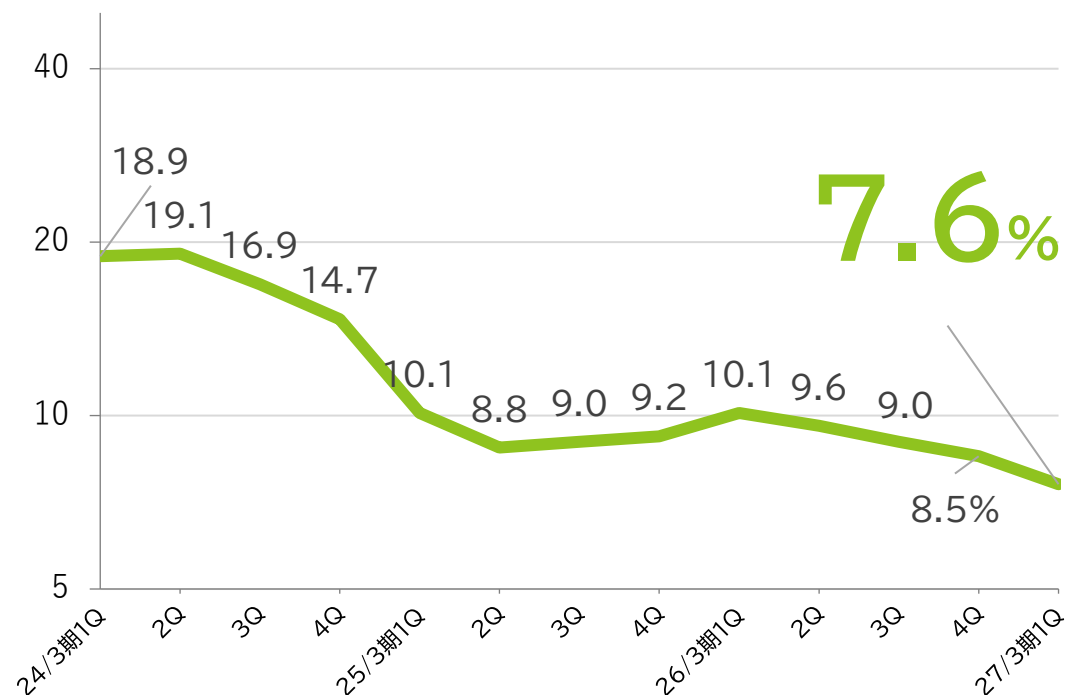
- Nagano Production Base等の取得により固定資産が26年3月末比で10.8%増加し、その取得資金として長期借入による資金調達を行ったことで負債が増加した結果、自己資本比率は4.1pt減少の46.7%。
- 配当による剰余金の取り崩し等により利益剰余金が減少し、純資産が26年3月末比で5.1%減少。

(単位:千円)	2026年3月末	2026年6月末	
			前期末比
現金及び預金	2,311,704	2,034,423	▲12.0%
売掛金	2,037,591	1,697,284	▲16.7%
棚卸資産	1,917,021	2,387,567	24.5%
その他流動資産	109,654	174,990	59.6%
貸倒引当金	▲521	▲450	▲13.6%
流動資産合計	6,375,451	6,293,816	▲1.3%
固定資産合計	3,836,797	4,251,171	10.8%
資産合計	10,212,248	10,544,987	3.3%
負債合計	5,020,838	5,616,548	11.9%
純資産合計	5,191,410	4,928,438	▲5.1%
自己資本比率	50.8%	46.7%	▲4.1pt

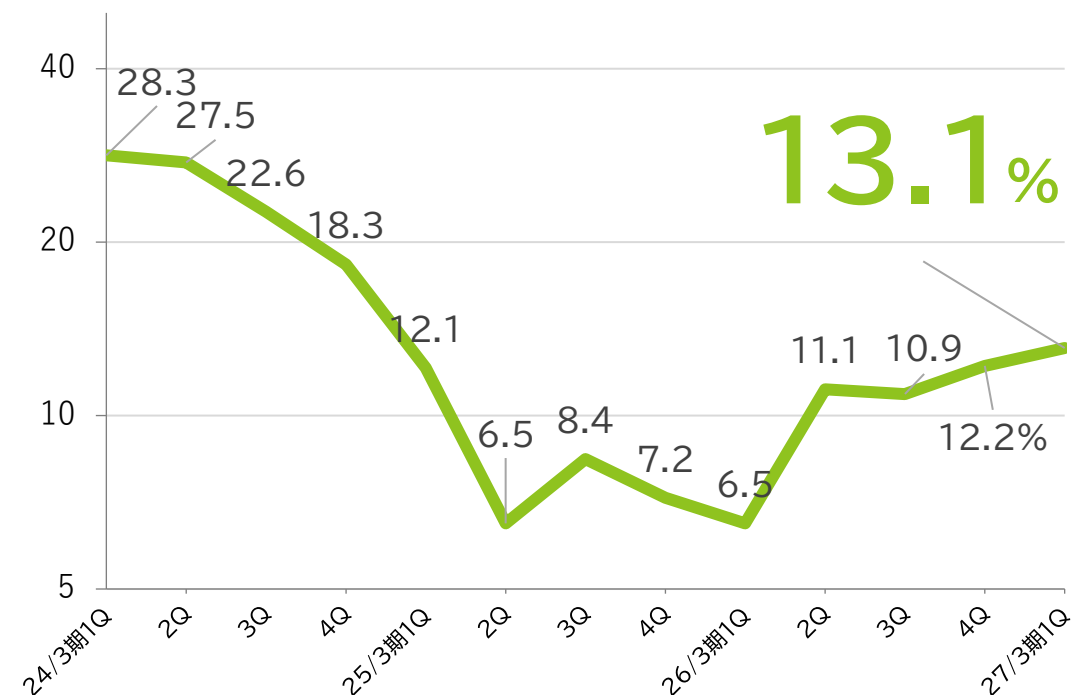
ROIC・ROE

- 親会社株主に帰属する四半期純利益の増加により、ROEは改善傾向が継続。
- 営業利益の減少に加え、Nagano Production Base等の取得に伴う有利子負債の増加により投下資本が拡大し、ROICを押し下げ。先行投資を含めた収益性向上施策の推進により、ROICの改善を目指す。

ROIC (直近12カ月間)



ROE (直近12カ月間)



2027年3月期 連結業績予想に対する進捗率

2027年3月期連結業績予想に対するグループ業績及びチャネル別売上高の進捗は以下の通り。
当第1四半期連結累計期間において、通期の業績予想の変更はなし。

連結業績進捗

- 売上高…………… 順調に推移。
- 営業利益…………… 売上総利益率の改善と販管費の圧縮を継続。
- 経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益 …… 為替差益として14百万円、特別損失として7百万円を計上。

単位:百万円	2027年3月期第1四半期		
		通期連結業績予想	進捗率
売上高	5,081	21,082	24.1%
営業利益	73	812	9.0%
営業利益率	1.5%	3.9%	—
経常利益	81	758	10.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	37	403	9.2%

販売チャネル別売上高進捗

- 直営及びFC …… 既存店のお客様数増に向けた売り場改革を推進中。
- EC…………… 公式ECサイトでの購買率向上に向けた施策の推進。
- ホールセール …… 大手小売チェーンに対する取引増と、取引先ポートフォリオの拡大。
- グローバル…………… 米国既存ブランドの売上増と、アジア及びその他地域の販路拡大を推進。

単位:百万円	2027年3月期第1四半期		
		通期連結業績予想	進捗率
直営	1,461	6,468	22.6%
FC	1,791	7,273	24.6%
EC	298	1,200	24.8%
ホールセール	800	3,480	23.0%
グローバル	729	2,661	27.4%
合計	5,081	21,082	24.1%

01 | 2027年3月期第1四半期連結決算

02 | 販売チャネル別業績

03 | 連結財務状況ほか

04 | 2027年3月期 事業方針進捗

05 | Appendix

2027年3月期事業方針進捗

国内事業

- ① 久世福商店既存店の収益拡大
- ② 生産効率と収益基盤の確立
- ③ M&Aによる食のSPA強化

グローバル事業

- ① 米国における持続的成長と収益性
- ② アジア・その他地域における成長と認知拡大
- ③ M&Aによるブランドポートフォリオの構築

2027年3月期事業方針進捗

国内事業

- ① 久世福商店既存店の収益拡大
- ② 生産効率と収益基盤の確立
- ③ M&Aによる食のSPA強化

グローバル事業

- ① 米国における持続的成長と収益性
- ② アジア・その他地域における成長と認知拡大
- ③ M&Aによるブランドポートフォリオの構築

久世福商店既存店の収益拡大 | 売り場改革・CRM強化

久世福商店既存店のお客数増加への取組みを推進し、収益性の拡大を目指す。

既存店平均年商目標(26/3期比)

1.2倍

26/3期105百万円→29/3期で127百万円水準に

ロイヤル顧客数目標(26/3期比)

2.5倍

26/3期8万人→29/3期20万人へ

● 売り場演出・商品開発・店舗販売力の強化を図る売り場改革は、主要店舗で順次展開開始。



➤ お試ししやすい価格・商品のラインナップ充実と試飲試食の強化により、入店や初回購入のきっかけを作る。

● リピーター向けと新規・ライト層向けに様々なCRM施策を推進。

➤ リピーター層向け

日頃よりご利用いただいている感謝の気持ちを込めてポイント付与



➤ 新規・ライト層向け

イチオシ商品を紹介するためのSNS動画発信強化



生産効率と収益基盤の確立

AIを活用したデジタルサプライチェーンの高度化と取得工場の内製化拡大により、原価低減と供給安定を両立。

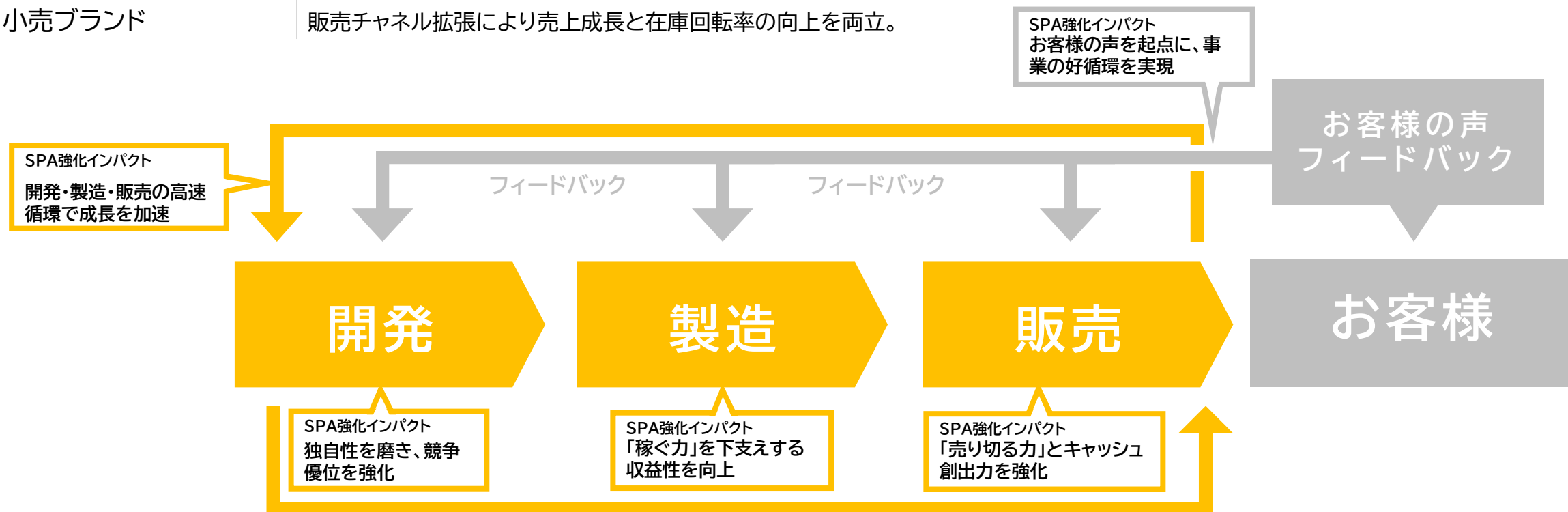
- 26年6月よりNagano Production Baseが稼働開始。AI化・機械化を推進するとともに内製化率を高め、自社商品の原価低減と品質・供給の安定を推進。



M&Aによる食のSPAモデル強化

開発・製造・販売の各機能を補完、強化するM&Aを実行。中長期的に注力する3分野を特定し、候補企業の選定・精査を継続中。

重点分野	SPA強化インパクト
菓子事業	高付加価値商品の創出により売上総利益率を向上、資本効率の高い成長を実現。
製造及び販売事業	内製化の推進により原価低減と利益率の改善を実現。
小売ブランド	販売チャネル拡張により売上成長と在庫回転率の向上を両立。



2027年3月期事業方針進捗

国内事業

- ① 久世福商店既存店の収益拡大
- ② 生産効率と収益基盤の確立
- ③ M&Aによる食のSPA強化

グローバル事業

- ① 米国における持続的成長と収益性
- ② アジア・その他地域における成長と認知拡大
- ③ M&Aによるブランドポートフォリオの構築

米国における持続的成長と収益性

米国子会社St.Cousair Inc.(SCI)では、ディストリビューター(問屋)や販売ブローカー※1網を活用した販路拡大と、工場稼働率改善による収益性向上を推進。

KUZE FUKU & SONS配荷店舗数

5,000店

2027年度目標(2024年時点2,000店舗)

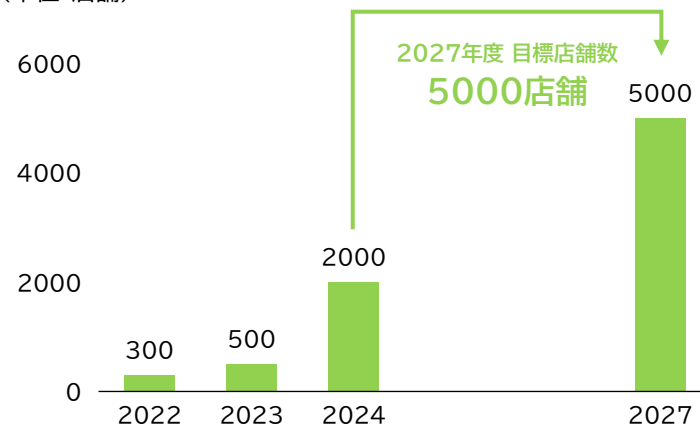
営業利益の黒字化

拡大

26/3期黒字化実現

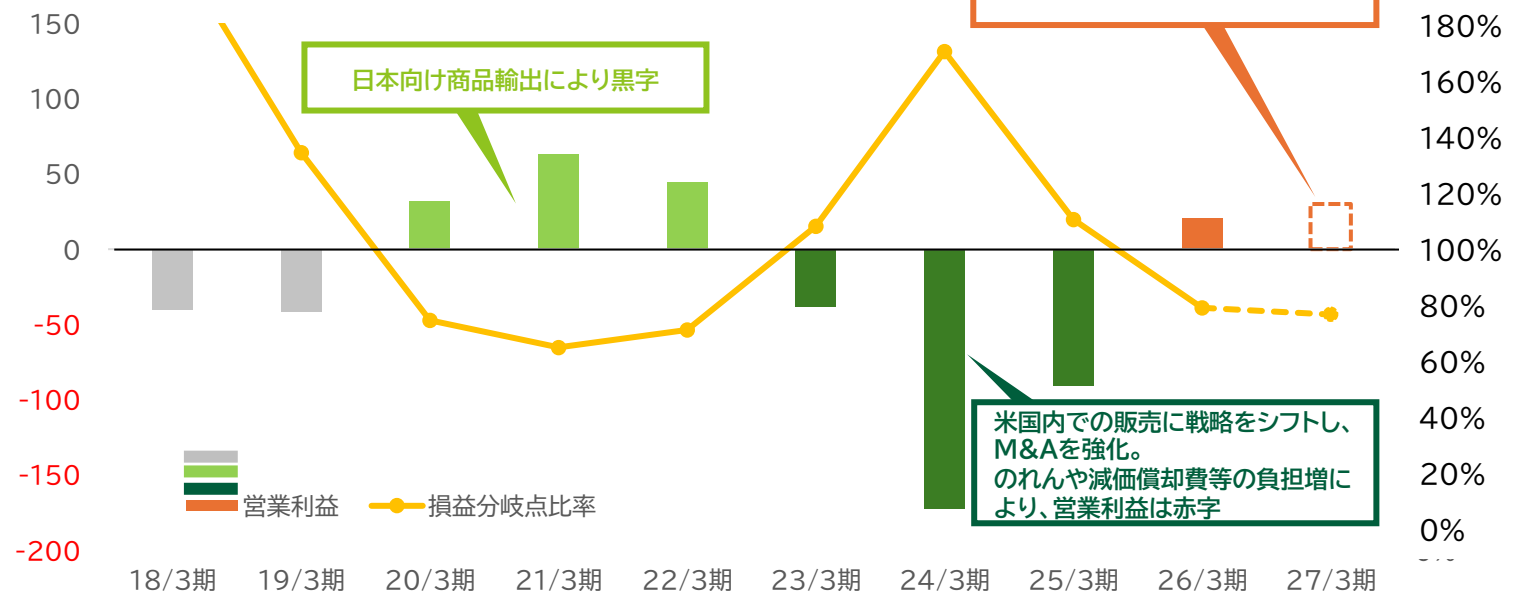
KUZE FUKU & SONS 配荷店舗数推移

(単位:店舗)



SCI営業利益及び損益分岐点比率の推移

(単位:百万円)



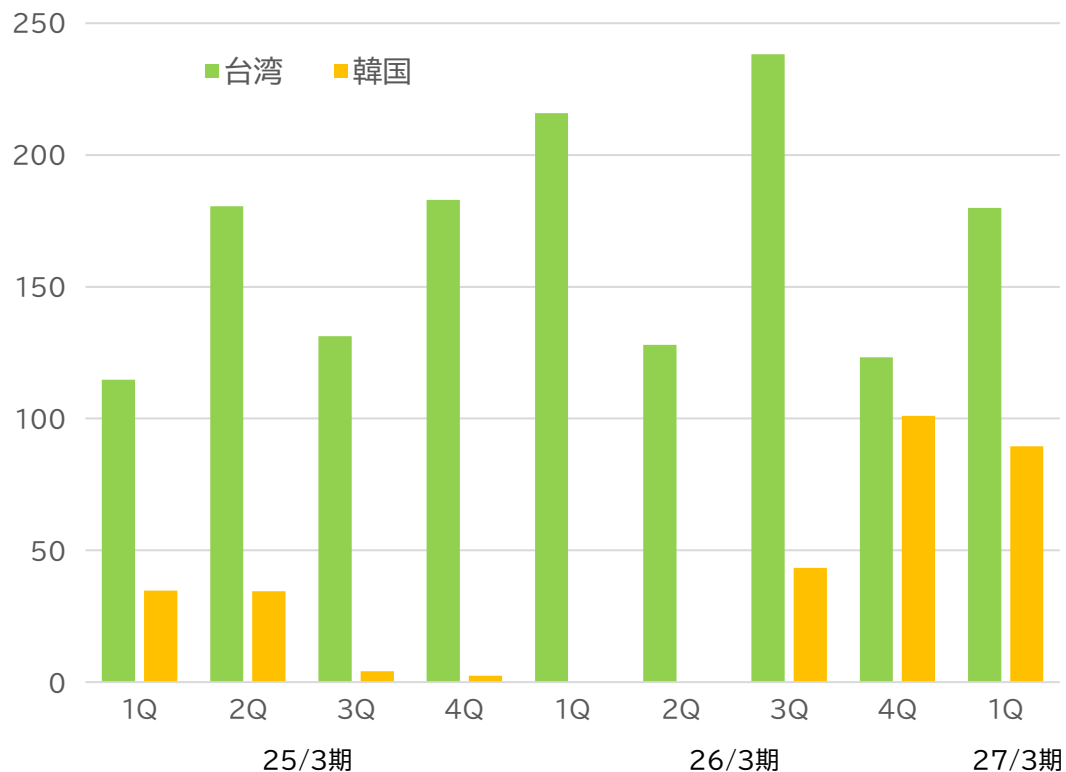
※1 米国独自の商習慣で、サプライヤーの立場で販路(小売店やフードサービス)に営業活動を行う外部セールス業者をいいます

アジア・その他地域における成長と認知拡大

台湾・韓国を中心に販路拡大を継続。韓国では、現地法人となる子会社St. Cousair Korea Co., Ltd.(SCK)の営業活動が奏功し、取引拡大に寄与。

台湾・韓国の四半期売上高推移

(単位:百万円)



台湾

大手小売チェーンを中心に、安定成長フェーズへ



韓国

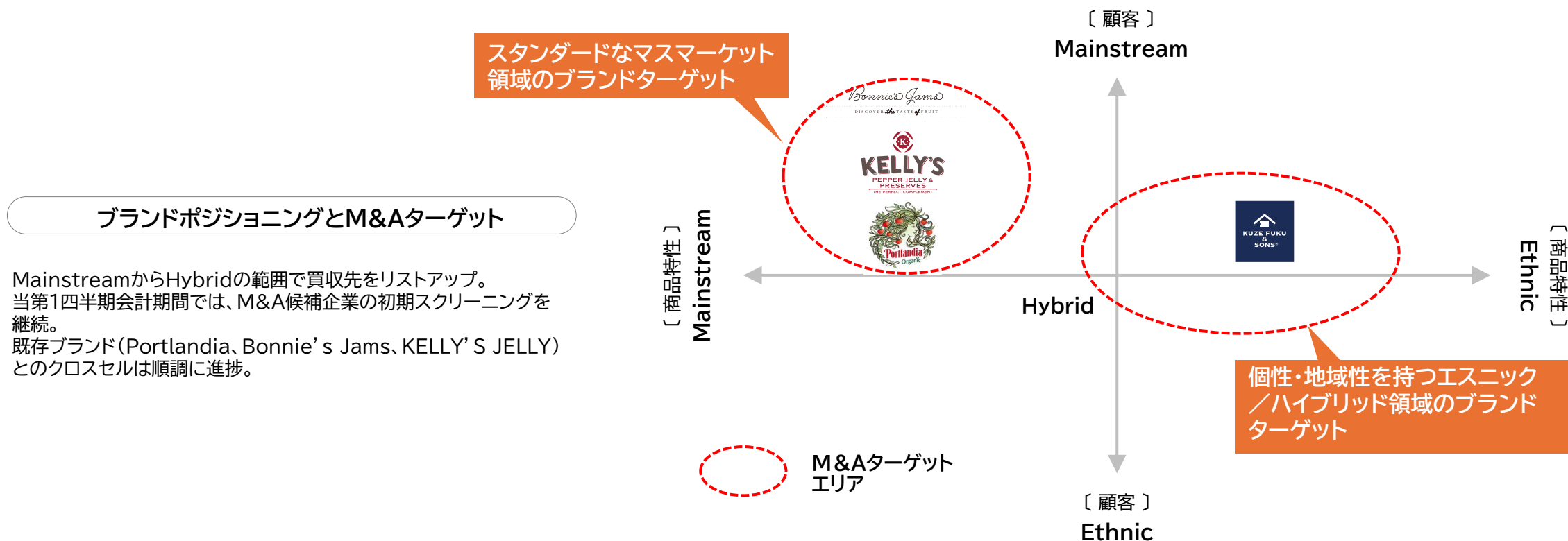
SCKを基盤に、市場情報の確保と顧客ニーズに即した商品提案を推進



M&Aによるブランドポートフォリオの強化

米国市場を中心に、シナジーを重視したM&Aを継続し、ブランドポートフォリオの多様性と販売網を拡大。

分野	ブランド買収により想定されるシナジー
販売	買収先企業が持つ既存販路、顧客の獲得／当社ブランドと買収先企業が持つ販路でのクロスセリング
製造	買収先企業商品の当社米国工場での製造により製造効率化、それに伴うコストダウン



01 | 2027年3月期第1四半期連結決算

02 | 販売チャネル別業績

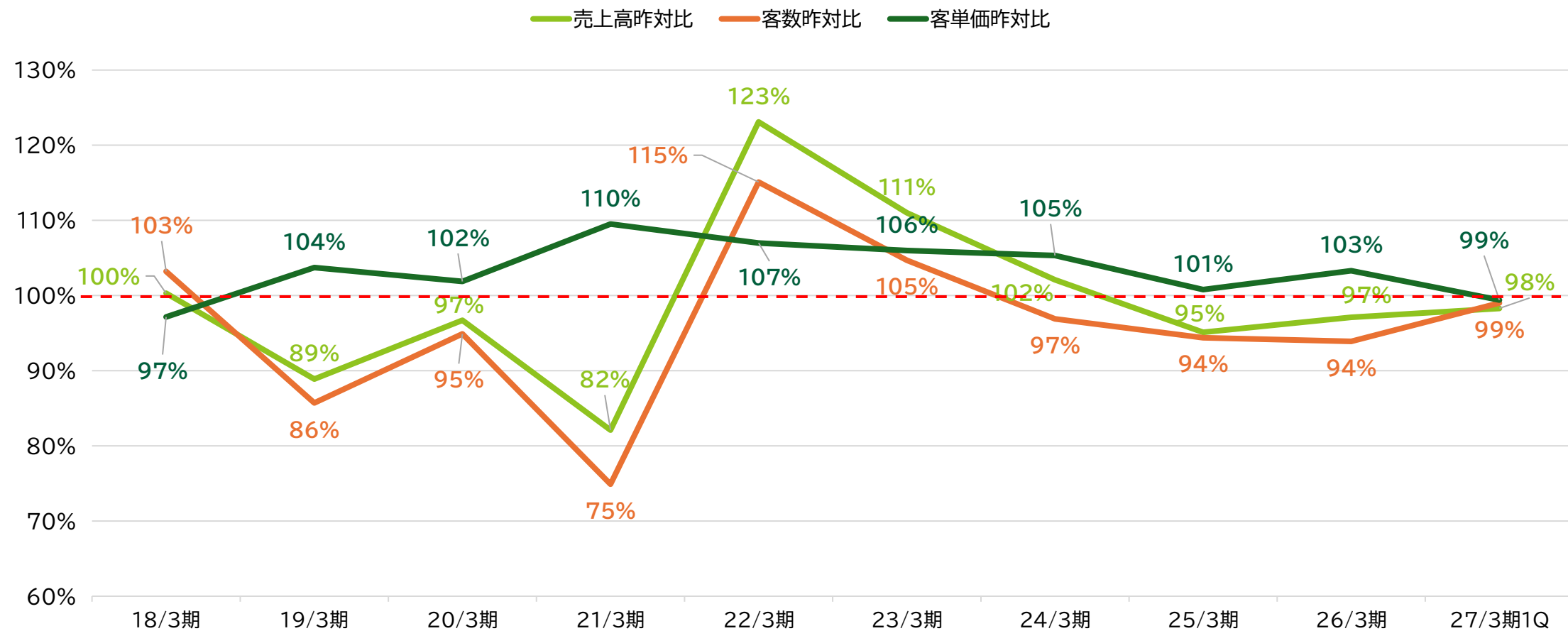
03 | 連結財務状況ほか

04 | 2027年3月期 事業方針進捗

05 | **Appendix**

既存店 売上高・客数・客単価 推移

既存店 売上高・客数・客単価 昨対比 推移 ※1,2



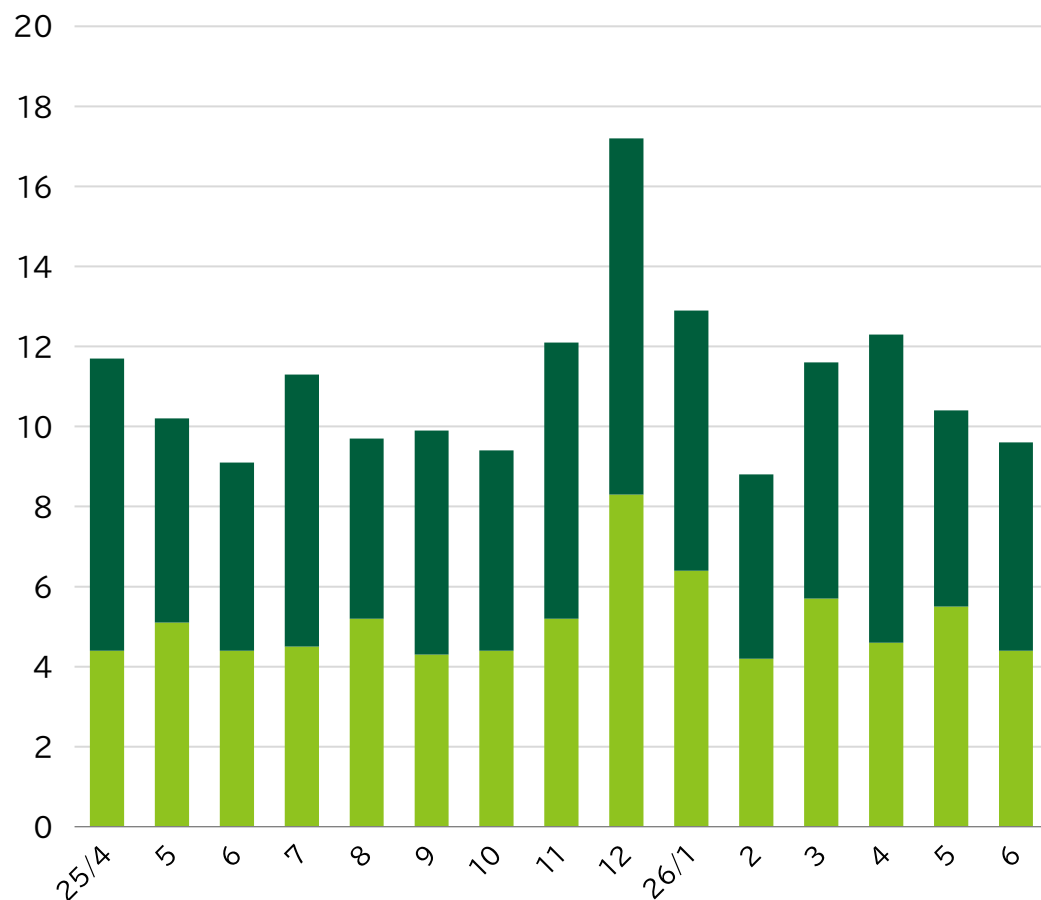
※1 当社グループは、開店後18カ月以上経過した店舗を「既存店」としております。 ※2 各年度期首で開店後18カ月以上経過している店舗を対象に売上高・客数・客単価の昨対比を計算しております。

販売チャネル別業績（店舗・EC）

月次売上高（店舗）

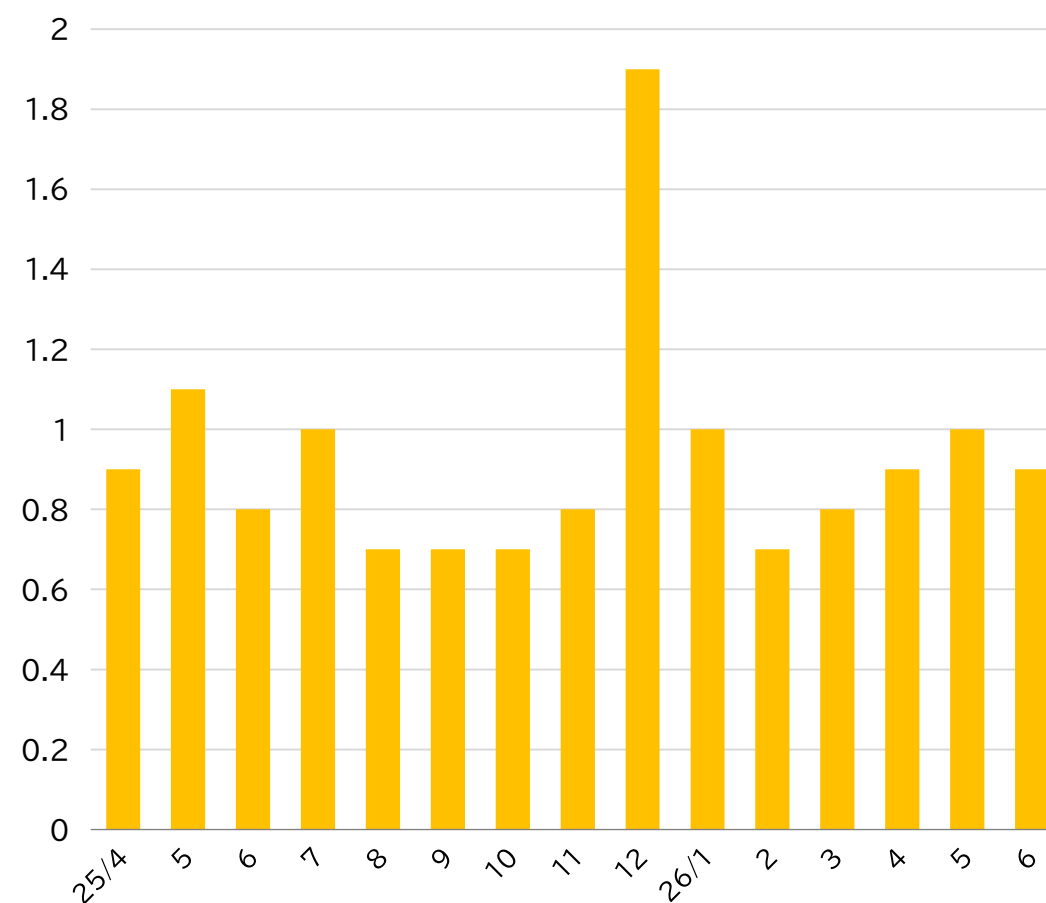
（単位：億円）

■直営 ■FC



月次売上高（EC）

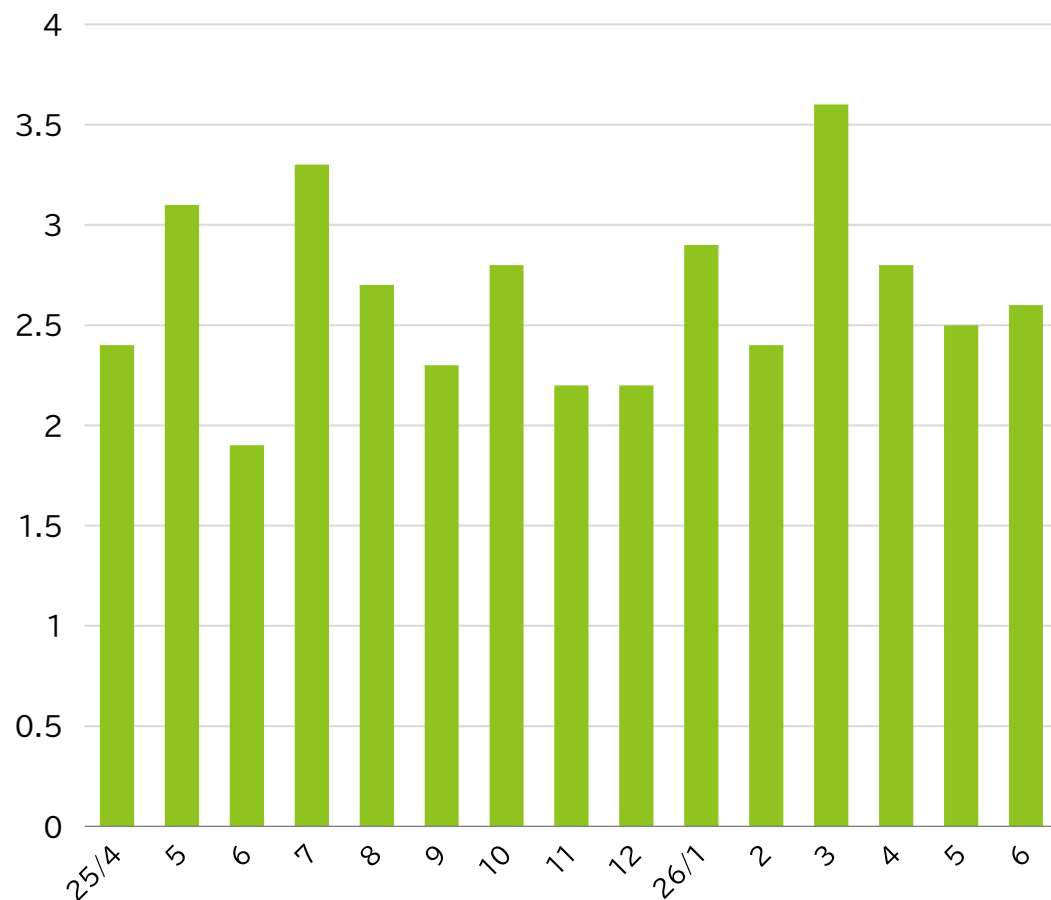
（単位：億円）



販売チャネル別業績（ホールセール・グローバル）

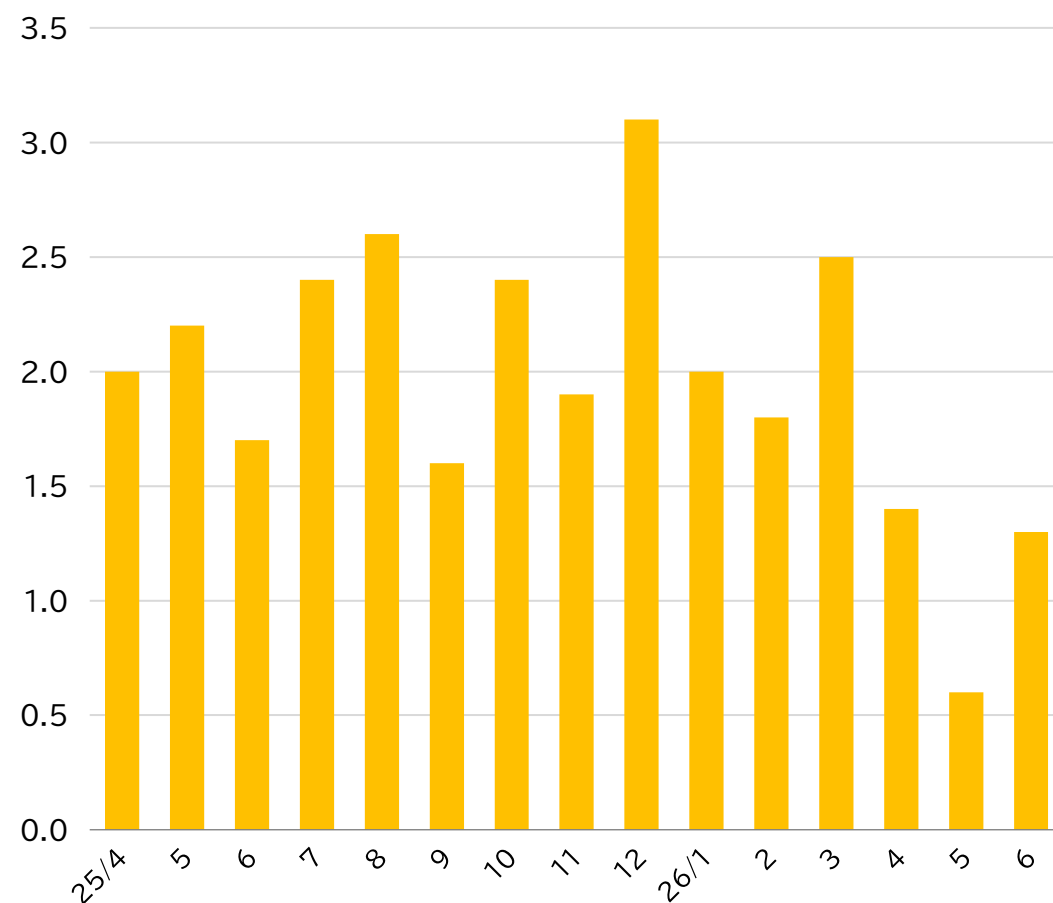
月次売上高（ホールセール）

（単位：億円）



月次売上高（グローバル）

（単位：億円）



過年度四半期連結業績

(単位:千円)	2027年3月期							
	1Q							
		構成比						
売上高	5,081,774	100.0%						
売上総利益	1,763,024	34.7%						
営業利益	73,788	1.5%						

(単位:千円)	2026年3月期							
	1Q		2Q		3Q		4Q	
		構成比		構成比		構成比		構成比
売上高	4,781,198	100.0%	4,894,879	100.0%	5,735,682	100.0%	5,188,852	100.0%
売上総利益	1,732,132	36.2%	1,743,880	35.6%	2,085,421	36.4%	1,803,775	34.8%
営業利益	139,289	2.9%	125,117	2.6%	375,653	6.5%	151,380	2.9%

(単位:千円)	2025年3月期							
	1Q		2Q		3Q		4Q	
		構成比		構成比		構成比		構成比
売上高	4,597,296	100.0%	4,611,672	100.0%	5,439,383	100.0%	4,818,907	100.0%
売上総利益	1,594,191	34.7%	1,595,602	34.6%	1,922,276	35.3%	1,667,573	34.6%
営業利益	87,301	1.9%	148,069	3.2%	379,328	7.0%	221,295	4.6%

2027年3月期 第1四半期 新商品情報抜粋 | 久世福商店



ゴロゴロほぐし焼鰯

2026年
4月発売

通年
販売

https://kuzefuku.com/?page_id=13&eci_product=fsh03059



ゴロゴロほぐし焼秋刀魚

2026年
4月発売

通年
販売

https://kuzefuku.com/?page_id=13&eci_product=fsh03060

2027年3月期 第1四半期 新商品情報抜粋 | 久世福商店



黒糖ミルク珈琲の素

2026年
4月発売

通年
販売

https://kuzefuku.com/?page_id=13&eci_product=fj00141



にごり仕立て

久世福の万能酢

2026年
6月発売

通年
販売

https://kuzefuku.com/?page_id=13&eci_product=fk00337

2027年3月期 第1四半期 新商品情報 | サンクゼール



信州果実の実りジャム
紅ほっぺ

2026年
4月発売

長野
限定

2027年3月期 第1四半期 新商品情報 | グローバル



Sweet Black Sesame
Spread

Kuze
Fuku &
Sons